

2014年度「図書館のWeb活用」

小野 永貴 (千葉大学アカデミック・リンク・センター)

1. 図書館 Web サイトの実態と評価の手法

- 所属先図書館が公開している Web サイトを、以下のような観点で評価して下さい。(1人3分程度のプレゼンテーション)
 - ・ 運用サイクル (ニュース等の更新頻度, 利用案内等の改訂ペース, 編集担当者の体制等)
 - ・ アクセスのしやすさ (地方自治体の Web サイトからのリンク状況, 検索エンジンでの検索結果等)
 - ・ コンテンツや機能 (掲載されている内容や電子的資料, Web 上で受けられるサービスや外部連携機能等)
 - ・ Web サイトのデザイン (配色や文字サイズ, レイアウトやリンクの配置等: 多様な利用者層を想定して)
- 評価手法・Web 上の評価ツールの活用
 - ・ 質問紙調査, 被験者実験, ヒューリスティック調査, インタビュー調査
 - ・ ログ分析 (アクセスログ・クリックログ等)
 - ・ アクセス解析サービスの導入
 - ・ Markup Validation Service, アクセシビリティチェッカー

2. Web 上の外部サービスや外部情報資源の活用例

- 書誌データの取り込みやオンライン資料へのリンク
 - ・ 国立国会図書館サーチ, レファレンス協同データベース, CiNii
 - ・ オンライン書店等の書影画像・本文サンプル, 国立国会図書館デジタル化資料
- マッシュアップによる機能高度化
 - ・ 横断検索や他の入手先の提示, 地図サービス, 仮想館内ナビゲーション
 - ・ 外部サービスの API や埋め込みコードの利用
- ソーシャルメディアとの連携・CGM や集合知の取り入れ
 - ・ ブログ, SNS, マイクロブログ, ソーシャルブックマーク, 動画共有サイト
 - ・ Web 本棚サービスでのオンライン特集展示
 - ・ ブックレビューやロコミサイト, 利用者参加型
 - ・ マルチメディアによる情報発信: ポッドキャスト・動画配信
- リッチサービス・リッチインタフェースによる利用者支援
 - ・ レコメンドサービス・サジェスト機能やパーソナライゼーションサービス
 - ・ パーソナル情報利用とプライバシー保護とのバランス

3. あるべき図書館サービスに向けた Web 活用

- Web 開発の発注と費用：適正な予算獲得のために
 - ・ Web サイトと図書館システムは別か
 - ・ Web 開発ベンダーの見積もりの実際
 - ・ オープンソースソフトウェアの活用
- 公共図書館の使命と Web：より良い利用者サービスのために
 - ・ 公共性への配慮：図書館の自由に関する宣言・図書館員の倫理綱領との調和
 - ・ 「業務＋広報＋非来館者サービス」→「一体的な利用者支援」
 - ・ 場としての図書館との統合：ラーニング・コモンズ
 - ・ 誰が Web を活用するのか：システムライブラリアンの実現に向けて

